

令和4年度 いでは文化記念館運営協議会 会議概要

○日 時 令和5年3月8日(水) 10時00分～11時30分

○場 所 いでは文化記念館 2 階レクチャールーム

○出席委員(順不同)

島津慈道、宮野直生(代理:阿部良一)、粕谷典史、工藤純平

○市側出席者

羽黒庁舎産業建設課:上林課長、金内課長補佐、宮本専門員

○指定管理者側出席者

羽黒町観光協会:國井事務局長、富樫学芸員、山崎学芸員

○次第

協 議

1) 令和4年度事業実施状況について

2) 令和5年度事業計画(案)について

3) その他

○公開・非公開の別

公 開

【会議の概要】

協 議（議長=会長）

（1）令和4年度事業実施状況について

◆内容（報告：羽黒町観光協会）

（資料）・令和4年度いでは文化記念館事業実績

- ・利用状況の推移
- ・企画展クイズラリー統計結果
- ・古文書講座アンケート結果
- ・歴史探訪アンケート結果

◆質問意見等

〔委員〕（工藤）

添付資料「利用状況の推移」で、「施設使用」と「その他利用」というのは何か。

〔事務局〕（宮本）

「施設使用」は貸館、「その他利用」は観光案内やトイレ利用等のこと

〔委員〕（島津）

・今後はコロナも下火になり来館者は回復するだろうと思うが、その間も維持管理の費用がかかっている。市の管理にかかる経費と、いではとしての経営の関係について聞きたい。

・もともと「いでは」というアイデアの元に動いてきたわけだが、市から観光協会の管理になるなどいではの運営も年々変わってきているため、このままだとかつての目的と整合性がなくなり、最後にはなくなってしまうのではと私自身少し不安に感じている。。

・よって今後どのように動いていくのか方針をお聞きし、皆さんからその趣旨に沿って、来年度からの運営計画などの話をしていただけたらと思う。委員の改選もあるので。

〔事務局〕（上林）

・開館から30年が経過し施設も老朽化が進んでいるが、当初の目的から変わってきている部分もあると思う。市には多数の施設があるため改修はすぐには難しいところだが、当館は平成28年に日本遺産に認定されたという情勢の変化があったため、担当課としては、今後は日本遺産の情報発信ブースとして再整備し、維持していければと考えている。日本遺産を前面に出しながら当館の情報発信という役割を明確にしていき、市の内部でのコンセンサスも明確にしていきたい。

〔委員〕（島津）

・関連して、鶴岡市の観光協会と羽黒町の観光協会との対応関係はどうなっているか。

〔事務局〕（上林）

鶴岡市全体で DEGAM という組織を立ち上げており、羽黒町観光協会もその会員という位置づけ。ただ、羽黒は市の中でも大きなウエイトを占めるので、市全体の一会員としてだけでなく、独自の業務も担っており、市全体と羽黒とは両輪として観光業務を行っていると認識している。

〔委員〕（島津）

・各々がバラバラにやっているように見える。本来は出羽三山関係ということで、黒川能のように芸能関係のところと一致しながら物事をやっているようならわかるが、どこに連絡をとればいいのか分からないところがいっぱいある。

・そのまま行くと本来の定義から外れ、最後には「いでは」はなくなっていってしまうのではないかなと思う。「いでは」を今後どこへもっていくのか、運営の問題が維持管理に関係してくると思う。今後の危惧する問題として提案した。

〔委員〕（粕谷）

・「いでは」の運営については、運営協議会よりも羽黒町観光協会によるところが大きい。運営協議会としては、博物館とか美術館のようにどのような企画をして人を集めるか、専門的な面から（の意見）は難しいと思う。自前の収蔵品がたくさんあればそれで運営もできるが、当館にはそういったものがないので非常に難しい運営だと思う。もっと学芸員だとか専門的な知識が大事で、我々のような素人の意見では不足ではないか。また、先ほど会長からあった収入だとか運営状況についても、観光協会の方から教えてほしい。

〔事務局〕（國井）

・平成 28 年に行革で羽黒町観光協会が民営化され、今は観光協会本来の業務に加えて、いでは文化記念館の管理運営の業務を任されている。いでは文化記念館については、指定管理として市から人件費も含め、年間約2,200万円の委託料をもらっている。その中で人件費、展示品を借用するための費用だとか、電気代とかをやり繰りしている。入館料・施設使用料は全て市に入る形になっている。

・おっしゃるとおり、学芸員が通常一人しかいないので周りでサポートしていきたいが、専門的知識がない。この問題は市も認識しているようなので、後で触れると思う。

観光協会については、市全体の DMO 組織 DEGAM の構成員であり、そのコンセプト「詣でるつかるいただきます」（4温泉と出羽三山・食文化を結び付ける）は一致しているが、個別の事業については若干ずれることがある。

・いでは文化記念館は、そもそも地域間交流がメインで、シンポジウムなどを積極的に開催してい

た施設。そこで企画展などもやっているが、専門的なものは難しいという声などもいただいていた。もっとパッケージ展示の導入にシフトしてはという声もあり、展示内容についても頭を抱えている。入館者を増やす手立て、スタイルを現在、模索中である。

〔委員〕（粕谷）

・学芸員は本当に大変だと思う。手向にはもっと詳しい人がたくさんいるので、ここで羽黒の展示をするのは難しい。その人達がいではに来て活動することもできない。運営協議会としてはホールや展示を活発化してほしいということだが、羽黒の展示ということではなかなかいい案がでない。

〔事務局〕（國井）

・基本的には、事務局なりに考えた案について、ご意見をいただく形でやっていきたい。

（2）令和5年度事業計画（案）について

◆内容（報告：羽黒町観光協会 富樫）

- ・令和5年度いでは文化記念館企画展示（案）
- ・令和5年度いでは文化記念館事業（案）

◆質問意見等

〔委員〕（粕谷）

三浦恒祺先生の収蔵資料は何点くらいあるか。

〔事務局〕（学芸員）

油絵が40数点、スケッチが30数点、水彩画が20数点寄贈していただいている。

〔委員〕（粕谷）

三浦先生もご高齢になられたと思うが、こういった開催方法になるのか。

〔事務局〕（学芸員）

今年の夏ごろに致道博物館で絵画展をするそうなので、冬は当館で催しができればと話している。

ギャラリートークはどういう形にするか検討中。

〔委員〕（粕谷）

・三浦先生は、昔の手向の風景もかなり描いていらっしゃると思うので、そういったものに興味がある人はいると思う。

〔事務局〕（学芸員）

まさに、今の風景とは違う風景を共有できるものにしたいと考えている。

〔事務局〕（國井）

半澤満先生、今井繁三郎先生など月山を描いている作家から寄贈されたものもあるので、そういった作品についても、今後展示を検討したい。（國井）

〔委員〕（粕谷）

・例えば、絵画の展示に併せ、縁のある方に演奏会をお願いするというやり方もあるのでは。

〔委員〕（阿部）

・卯年御縁年ということで、神社と共催という形で事業を考えていただいているのは大変ありがたい。

神社では山頂の歴史博物館で月山刀を中心とした展示を考えている。関連して、できれば刀匠の月山貞吉さんにもお出でいただき、講演会などをしたいと考えている。

また、五重塔の改修工事中は神様に天地金神社へお移りいただくのと、千仏堂に寄贈いただいた方の親族の方から今回、5体の仏さまを追加で奉納していただくことになったため、そのお披露目も併せて天地金神社で行い、随神門付近のお参りポイントとし、山頂と随神門付近の両方を盛り上げたい。

〔委員〕（島津）

・今年はコロナ禍もだいぶ和らいできて、人の動きも活発になってきている。御縁年でさらに人を集められれば、こういった事からも計画案について、ご意見いただきたい。

〔委員〕（阿部）

・資料によると8月の来館者が多いようだが、コロナの第8波と重なったのにあまり関係なかったのか。秋の方が人出が回復してきた印象があるが。今年も夏山が心配なので、参考にしたい。

〔事務局〕

夏休みで家族連れが多かったり、五重塔の修理の前にぜひおいでくださいという呼びかけの効果もあったのではないかと。（学芸員）

GW前に移動制限が解除されたので、第8波が来てからも、人の移動は残っていたのでは。（國井）
以前の年のデータが手元にないが、例年はもっと8月が増えていた可能性もある。（宮本）

（3）その他

◆内容（報告：羽黒庁舎産業建設課 宮本）

①企画検討会議の開催について

学芸員の負担、収蔵品が少ない中で今後の方向性を探るため、他施設の学芸員と意見交換

②いでは五重塔コーナーの配置換えについて

文化庁日本遺産モデル構築事業を活用

③委員の改選について

これまでの経緯も踏まえて調整

5 閉 会